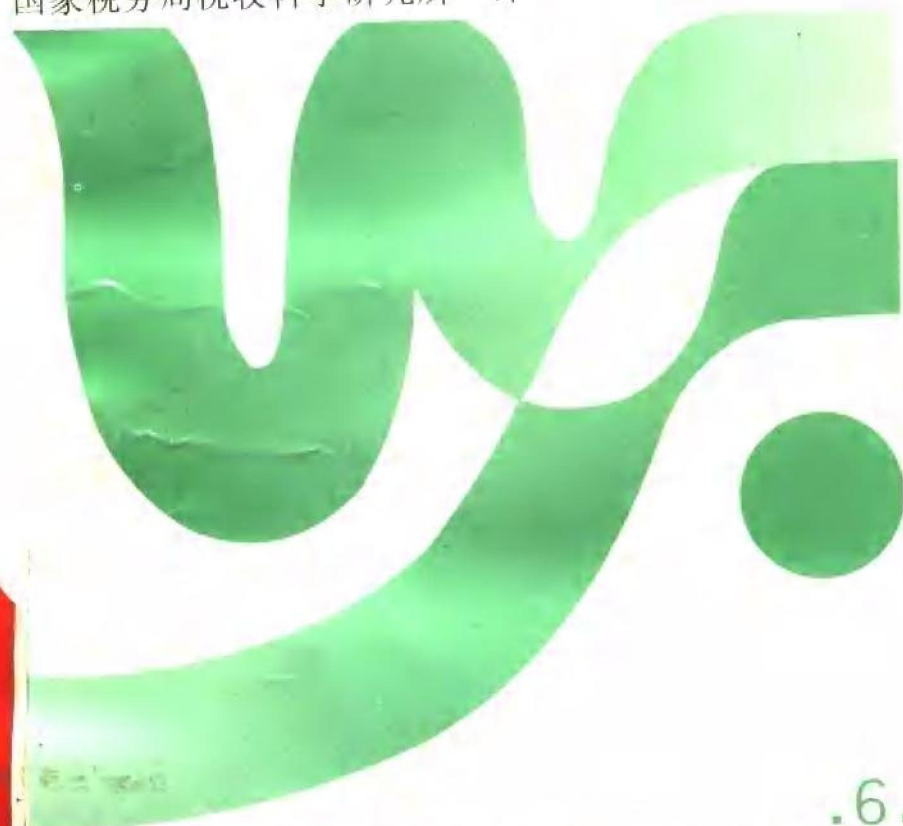


外国税收著作翻译丛书 .6.

日本税制 与税理士制度

国家税务总局税收科学研究所 译



.6.

WAI GUO SHUI SHOU ZHU ZUO FAN YI CONG SHU

中国财政经济出版社

外国税收著作翻译丛书 (6)

日本税制与税理士制度

国家税务总局税收科学研究所译

中国财政经济出版社

(京) 新登字 038 号

外国税收著作翻译丛书(6)

日本税制与税理士制度

国家税务总局税收科学研究所 译

中国财政经济出版社 出版

社址: 北京东城大佛寺东街 8 号 邮政编码: 100010

北京财经印刷厂印刷 各地新华书店经销

850×1168 毫米 32 开 13.875 印张 325 000 字

1992 年 5 月第 1 版 1992 年 5 月北京第 1 次印刷

印数: 1—8300 定价: 11.00 元

(图书出现质量问题, 本社负责调换)

前 言

为了促进与繁荣我国的税收科研事业，并为税务部门、有关科研和教学单位的工作、研究、教学提供参考，国家税务局税收科学研究所将陆续组织翻译并出版一系列外国税收重要著作，并以“外国税收著作翻译丛书”与读者见面。《日本税制与税理士制度》是该丛书之六。

本书分上、中、下三篇。上篇“日本税制”译自日本租税协会1989年5月出版的《日本税制》一书，主要介绍国际化时代的税制和日本现行税制，并在国际比较的基础上，进行了较为详尽的分析，指出了税制改革的大趋势；中篇“日本税理士制度”译自日本东京税理士会1988年1月出版的《税理士业务要览》，主要介绍日本的税理士法、日本税理士联合会会则等法规；下篇“日本转让定价税制”译自1991年12月羽床正秀编的《日本转让定价税制详释》一书，所列的113个问答，不仅是日本的实务，也是我国在实际工作中可能遇到的。本书对深化我国的税制改革，完善我国税制结构、转让定价税制和地方税制都有着借鉴意义；而有关日本税理士制度的合理内核，也将有助于我国深化税收征管改革，建立和完善我国的税务代理制度。

本书上篇由邹伟翻译；中篇前两章由黄正吉翻译，后八章由邹伟翻译；下篇由姜莉翻译。孙志伟、李晓军初审了部分书稿。最后由刘心一对全书进行了审校，并总纂定稿。

在本书的翻译过程中，虽然我们竭尽全力，但限于经验与水平，不当之处在所难免，殷切希望读者批评指正。

国家税务总局税收科学研究所

1992年3月8日

目 录

上篇 日本税制

第一章 国际化时代的税制	(2)
1—1 各国税制比较	(2)
1—2 国际间税制的接近	(3)
1—3 使各国税制接近的因素	(6)
1—4 国际化中的税制改革—— (1) 间接税改革	(9)
1—5 国际化中的税制改革—— (2) 直接税改革	(11)
1—6 里根税制改革的促动	(13)
1—7 中曾根、竹下内阁的税制改革步伐	(14)
1—8 与里根改革的不同	(16)
第二章 税收体系	(19)
第三章 所得课税	(21)
3—1 所得税、个人住民税、个人事业税	(21)
3—2 法人税、法人住民税、法人事业税	(65)
第四章 资产课税	(102)
4—1 继承税、赠与税	(102)
4—2 固定资产税、都市计划税	(115)
4—3 事业所税	(124)
4—4 不动产取得税	(125)

4—5	特别土地保有税、宅地开发税等	(126)
4—6	汽车税、轻型汽车税	(128)
第五章	消费课税	(132)
5—1	消费税	(132)
5—2	个别间接税	(151)
第六章	流通课税	(157)
6—1	印花税	(157)
6—2	登记许可税	(159)
6—3	有价证券交易税	(162)
6—4	交易所税	(163)
6—5	吨税、特别吨税	(164)
第七章	国际课税	(166)
7—1	税收协定	(166)
7—2	转移价格税制	(179)
7—3	避税地对策税制	(183)
7—4	外国税额扣除	(188)

中篇 日本税理士制度

第八章	税理士法	(194)
8—1	总则	(194)
8—2	税理士考试	(197)
8—3	注册登记	(202)
8—4	税理士的权利和义务	(207)
8—5	税理士的责任	(211)
8—6	税理士审查会	(213)
8—7	税理士会及日本税理士会联合会	(215)
8—8	杂则	(221)

8—9	罚则	(224)
第九章	税理士法施行令	(226)
第十章	税理士法施行规则	(233)
10—1	税理士业务	(233)
10—2	税理士考试	(233)
10—3	登记注册	(236)
10—4	杂则	(239)
10—5	附则	(241)
第十一章	日本税理士会联合会会则	(249)
11—1	总则	(249)
11—2	高级职员	(251)
11—3	税理士会以及常务理事会	(253)
11—4	顾问、咨询员及评议员	(255)
11—5	总会	(256)
11—6	税理士注册	(258)
11—7	资格审查会	(264)
11—8	保持税理士品格	(265)
11—9	报酬及帐簿制作	(266)
11—10	研修	(267)
11—11	税务援助	(267)
11—12	监督	(268)
11—13	会费及筹措金	(270)
11—14	总务及会计	(271)
11—15	有关新设税理士会等的特例	(273)
第十二章	东京都税理士会会务执行细则	(276)
12—1	总则	(276)
12—2	执行机关	(277)

12—3	审议机关	(278)
12—4	协议机关	(281)
12—5	分管机关	(282)
12—6	补则	(286)
第十三章	税务援助实施细则	(291)
13—1	总则	(291)
13—2	指定税理士	(293)
13—3	税务援助的实施	(294)
13—4	补则	(296)
第十四章	税务调查	(297)
14—1	质问检查权与税务调查	(297)
14—2	税务调查的分类	(297)
14—3	税务调查与税理士业务	(299)
第十五章	纪律规则	(301)
15—1	总则	(301)
15—2	遵守事项	(301)
15—3	纪律委员会	(304)
15—4	表彰及处分	(305)
15—5	对会员的雇员等的监督	(306)
15—6	补则	(307)
第十六章	互助规则	(308)
16—1	总则	(308)
16—2	给付	(308)
16—3	会计及基金	(313)
16—4	互助委员会	(314)
16—5	补则	(315)
第十七章	税理士报酬规定	(316)

17—1	总则	(316)
17—2	顾问报酬	(317)
17—3	税务代理报酬	(320)
17—4	不服申诉的代理报酬	(328)
17—5	调查到场的报酬	(329)
17—6	制作税务文书的报酬	(329)
17—7	税务商谈报酬	(331)
17—8	日薪、旅费及宿费	(332)
17—9	其他特则	(333)

下篇 日本转让定价税制

第十八章	基本问题.....	(336)
18—1	引进转让定价税制的宗旨和该税制的概要	(336)
18—2	各国转让定价税制的比较	(337)
18—3	避税动机	(339)
18—4	被国外关联企业转移进所得时	(339)
第十九章	转让定价税制的适用.....	(340)
19—1	适用转让定价税制的企业范围	(340)
19—2	适用转让定价税制的交易对象	(340)
19—3	债务担保以及预备担保	(341)
19—4	外国企业在日本的分公司与国外关联企业间的 交易	(342)
19—5	日本企业在国外的分公司与国外关联企业间的 交易	(343)
19—6	国外关联企业来源于日本所得的交易	(344)
19—7	与在日本没有设立常设机构的外国企业间的 交易	(344)

19—8	减免法人税的交易	(345)
19—9	与合资企业的交易	(346)
19—10	与清算企业的交易	(346)
第二十章	关联关系	(348)
20—1	间接控股比例的计算	(348)
20—2	关于控股比例的例示	(349)
20—3	两个企业被同一自然人持有股份	(352)
20—4	优先股（无表决权股）以及名义股	(353)
20—5	企业并未意识到“特殊关系”时	(354)
20—6	实际支配	(354)
20—7	非正常交易价格与实际支配	(355)
20—8	同时具有出资关系与实际支配关系时	(355)
第二十一章	独立企业间成交价格的核算	(358)
21—1	独立价格比准法	(358)
21—2	再销售价格基准法	(359)
21—3	成本基准法	(360)
21—4	独立价格比准法的适用例子	(361)
21—5	少量的交易可否成为采用独立价格比准法时的 比较对象交易	(362)
21—6	有价证券的交易价格	(363)
21—7	其它类似方法	(364)
21—8	其它方法	(365)
21—9	货物交易以外的交易	(365)
21—10	核算方法的选择	(366)
21—11	比较对象交易	(366)
21—12	市场差异	(368)
21—13	交易规模差异	(368)

21—14	差异调整 (1) —— 交易条件差异	(369)
21—15	差异调整 (2) —— 结算条件差异	(370)
21—16	通常利润率的计算方法	(371)
21—17	与个人股东的交易价格	(372)
21—18	折让与回扣等	(372)
21—19	适用再销售价格基准法时, 如货物盘存在库, 应如何处理	(373)
21—20	适用成本基准法时货物的购入价格不妥当	(373)
21—21	与定点供货企业的交易价格能否作为适用成 本基准法的依据	(374)
21—22	以外币结算的交易	(375)
21—23	差异不能调整时	(376)
21—24	独立企业间成交价格的幅度	(376)
21—25	相抵交易	(377)
21—26	开发市场的交易	(378)
21—27	以低于成本的价格出售	(378)
21—28	不按现时汇率定价时	(379)
21—29	提供劳务时的独立企业间成交价格的核算	(380)
21—30	提供劳务交易的价格 (1)	(380)
21—31	提供劳务交易的价格 (2)	(381)
21—32	确定贷款利率时必须考虑的因素 (1)	(382)
21—33	确定贷款利率时必须考虑的因素 (2) —— 贷款币种问题	(383)
21—34	非金融企业进行贷款时的独立企业利率 (1)	(383)

21—35	非金融企业进行贷款时的独立企业利率 (2) ——向子公司贷出以低成本筹集到的资金时	(384)
21—36	金融企业进行贷款时的独立企业利率.....	(385)
21—37	对经营状况不佳的子公司的无息贷款.....	(386)
21—38	租金的核算 (1)	(386)
21—39	租金的核算 (2)	(387)
21—40	专有技术使用费的核算.....	(388)
21—41	按外国税务当局的旨意而确定交易价格时.....	(390)
21—42	根据外国法令而改变交易价格时.....	(391)
21—43	与关税定率法的关系.....	(392)
21—44	对国际关联交易价格的核定要点.....	(393)
第二十二章	第三方企业参与交易	(394)
22—1	什么是第三方企业参与交易	(394)
22—2	第三方企业参与交易视同国际关联交易的理 由.....	(395)
22—3	第三方企业参与交易的差额调整	(395)
第二十三章	捐赠款	(397)
23—1	转让定价税制与捐赠款的关系	(397)
23—2	对国外关联企业的捐赠款	(397)
22—3	高价购入债券的处理	(398)
第二十四章	差额调整等	(399)
24—1	差额处理	(399)
24—2	差额调整的申请方法	(399)
24—3	高价购入的资产期末盘存在库时的差额调整 申报	(400)
24—4	预付款处理与汇兑损益	(401)

24—5 预付款可否作为坏帐损失处理	(401)
第二十五章 核定计算规定	(403)
25—1 核定计算规定的适用	(403)
25—2 资料提供	(404)
25—3 什么叫“迅速提供”	(404)
25—4 什么是核算独立企业间成交价格的必要资料 ...	(405)
25—5 没有资料时	(405)
25—6 有形资产之外的交易	(406)
第二十六章 资料等的收集	(407)
26—1 国外关联企业所在国禁止将有关资料携带 出境时	(407)
26—2 拒不提供国外关联企业的资料时	(407)
26—3 为比较对象交易保守秘密	(408)
第二十七章 转让定价税制与避税港对策税制的适用 关系	(409)
27—1 转让定价税制与避税港对策税制的适用条 件	(409)
27—2 子公司所得额减计办法	(409)
第二十八章 转让定价税制的执行	(411)
28—1 转让定价税制的执行	(411)
第二十九章 相互协商及对应调整	(414)
29—1 所谓相互协商	(414)
29—2 提出相互协商申请	(414)
29—3 提出相互协商申请的期限	(415)
29—4 相互协商的实施 (1)	(416)
29—5 相互协商的实施 (2)	(417)
29—6 相互协商达成一致时	(417)

29—7	相互协商不能达成一致时	(418)
29—8	更正期限与相互协商	(418)
29—9	相互协商申请与异议申请	(419)
29—10	关于第二次调整	(419)
29—11	与关联企业所在国没有税收协定时	(420)
29—12	滞纳金和退税附加	(421)
第三十章	确认方式	(423)
30—1	引进确认制度的目的	(423)
30—2	确认制度的梗概	(423)
30—3	确认对象交易	(424)
30—4	确认的作用	(424)
30—5	申请确认的方法	(425)
30—6	确认通知	(426)
30—7	确认的更改和取消	(426)
30—8	确认对外国税务当局的作用	(427)
30—9	确认的实例	(427)
30—10	不能确认时	(428)
30—11	提出确认申请的期限	(428)
30—12	确认申请的审查	(429)

上 篇

日 本 税 制

第一章 国际化时代的税制

1—1 各国税制比较

一般而言，以往在进行国际间的税制比较时，往往是将税制模式划分为盎格鲁撒克逊型、拉丁·欧洲型、中间型者居多。以英国、美国为代表的盎格鲁撒克逊型，是以所得税等直接税为主的，以法国、意大利为代表的拉丁、欧洲型，是以间接税为主的。以联邦德国为代表的中间型，由于立足于直接税和间接税两点，而介于直接税为主和间接税为主的中间位置。

近代税制是以所得税制的引进为里程碑的。这不能不说是由于所得税制的必要性且能够实现多征和公平负担的缘故。在引进所得税制之前，就像日本的情况，最初是以地租为主，之后是以酒为代表的对特别货物课征的特别消费税、关税等间接税为支柱的。

可以这样认为：如此繁多的体系是以全部法人所得、个人所得为课税对象征收的所得税制为主，经过调整后确立了近代税制的。

此外，人们认为，使以繁多的特别货物为课税对象的间接税合理化，使具有多征性并以所有消费物品为对象的一般消费税发展成为税制的中心，是近代税制确立的又一条途径。

前者，典型之处是英国以 18 世纪末的拿破仑战争为契机起步的税收体系，后者，是借第一次世界大战之机，以德意志为中心